

第11回全国高等学校情報教育研究会全国大会（秋田大会）

秋田県立仁賀保高等学校教諭 小西 一幸

1. はじめに

第11回全国高等学校情報教育研究会全国大会（秋田大会）は、「新時代の学びをリードする情報教育-秋田から全国へ向けて-」をテーマに、2018（平成30）年8月9日（木）、10日（金）の2日間にわたって、秋田県秋田市の公立大学法人秋田公立美術大学を会場に開催された。252名の参加者を迎え、東北初開催であり平成最後の全国大会となった。東北の地で開催できたことに、関わったすべての方々に感謝します。



写真1 大会冊子表紙

2. 第11回秋田大会の概要

2.1 開会行事

秋田県高等学校教育研究会情報教育部会部会長（秋田大会実行委員長）秋田県立横手清陵学院中学校・高等学校長 信田正之先生の開会のことばで開幕し、全国高等学校情報教育研究会会長、東

京都立町田高等学校統括校長 牛来峯聡先生の挨拶、来賓として秋田県教育委員会教育長 米田進先生、秋田公立美術大学学長 霜鳥秋則先生からご祝辞をいただいた。

2.2 基調講演

東北大学大学院情報科学研究科 教授 堀田龍也先生を迎え、「教育の情報化の動向と今後の展望」と題してご講話をいただいた。新学習指導要領における情報教育のあり方や、2020年から必修化となる小学校プログラミング教育にはじまるプログラミング教育など、高校「情報」を取り巻く環境が劇的に変化することが容易に想像できる内容であった。

2.3 ポスターセッション

ポスターセッションは、高校、大学、各種研究機関合わせて25件の展示・発表が行われた。美術大学内のアトリウム棟で実施され、天井が高く開放感のある空間で、多岐にわたる展示・発表の数々に、参加者は立ち止まり見入っていた。

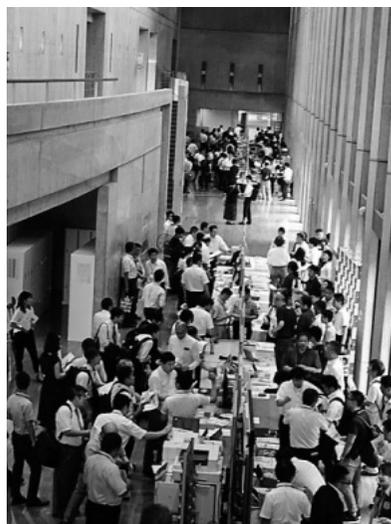


写真2 アトリウム棟の様子

表1 テーマ一覧

- 1) 学習意欲を高める評価とプログラミングの評価
- 2) 千葉県内の情報担当者のアンケート結果より
- 3) プログラム可視化 (PV) を活用したコースウェア
- 4) 「情報を正しく伝える」ための情報デザインの実践例
- 5) 文部科学省大学入学選抜改革推進委託事業情報分野高校実証試験
- 6) シミュレーションを活用したメカトロニクス教育の実践
- 7) WaPENの開発
- 8) 次期学習指導要領「情報Ⅰ」に向けたピクトグラム構想の提案
- 9) 3教科連携「データサイエンス(統計・データ分析)」実践報告
- 10) 次期学習指導要領に向けた教科「情報」担当教員の意識
- 11) コミュニケーション／メディア概念と関連付けた情報概念の形式化
- 12) こんな「情報デザイン」の授業いかがでしょうか?～情報Ⅰ・Ⅱの実施に向けて～
- 13) LINE@を活用したタッチタイピング支援の検討
- 14) 小高連携授業 ～高校生による情報の授業～
- 15) 課題解決・バスの遅延を解消せよ
- 16) 高校生向けのデザイン教育試案と小冊子制作
- 17) 高校生に認知科学を～コンピュータを知ることとはヒトを知ること～
- 18) Processingを用いたオブジェクト指向プログラミング授業の実践
- 19) 情報科における外国につながる生徒への対応や授業実践
- 20) センサのプログラミングと計測データを分析する学習環境の提案
- 21) オンライン版ドリトルの統計処理機能と実践の報告
- 22) 発見的に学習するプログラミング
- 23) 情報科授業における知財教育の実践報告
- 24) 「情報Ⅰ」に向けた人型ピクトグラムと学ぶ授業構想の提案
- 25) オープンデータを活用した地域貢献アプリ

2.4 分科会発表

分科会発表は、3会場各8件、合計24件の発表が行われた。発表テーマ(表2参照)のキーワー

ドは「新学習指導要領」「プログラミング」「SNS」であり、高校「情報」を取り巻く環境が研究発表の題材となっていた。また、24件中6件の発表が東北・北海道からの発表ということで、情報教育の取り組みを東北秋田から全国へ向けて発信することができたと言える。

表2 発表テーマ

- 1) 3年目を迎えた専門科目「情報学基礎」一次期指導要領における「情報Ⅰ」を見据えたプログラム開発
- 2) 専門学科「情報」におけるSPH(スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール)の取り組み
- 3) 生徒の興味に着目した知的財産に関する授業実践報告
- 4) コーチングの手法を活かしたプログラミング教育に関する考察
- 5) プログラミング教育推進に関する一考察
- 6) 問題解決型学習の授業実践報告「秋田県の市町村をデザインする」
- 7) ネットワークの学習意欲を向上させる指導と評価について
- 8) 「問題解決力」を試す問題の試行
- 9) 他者との違いを知ることによって自分への理解を深める情報モラル教育
- 10) Scratchワークショップ型の「教えない」プログラミング教育
- 11) 情報社会の問題解決
- 12) ネットコミュニケーショントラブル予防の教育プログラムの開発
- 13) 協調的問題解決の議論ツールとしてのチャット／SNSの活用
- 14) 学ぶ文化祭 統計解析と問題解決の手法を取り入れた探究活動
- 15) プログラム可視化 (PV) を活用したコースウェア
- 16) 全日制普通科「情報コース」設置校の実践報告
- 17) 問題解決に自然言語処理と機械学習を用いた協働学習の実践
- 18) 公立高校に於いて生徒一人一人にタブレット型パソコンを購入させる情報教育15年の実践
- 19) 情報の科学的理解を目指した情報モラルの授業実践
- 20) 楽しく取り組める Unplugged Programming
- 21) 問題解決学習の授業実践～言語活動の充実を

意識して～

- 22) プログラミングでLINEの仕組みを理解しよう
- 23) 反転学習を意識した動画教材の作成
- 24) 生徒所有端末の授業での有効活用

2.5 文部科学省講評・講演

講評・講演は情報教育振興室教科調査官，国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 鹿野利春先生よりいただいた。

講演の中で，新学習指導要領における教科「情報」の概要と変更点ならびに教科指導に向けての研修についてご助言をいただいた。

2.6 閉会行事

閉会行事は，第11回大会実行委員長の信田正之先生が挨拶をし，次年度開催地の和歌山県より和歌山県立和歌山高等学校長 西村文宏先生が挨拶をして，秋田県から和歌山県にバトンを渡した。最後に，全国高等学校情報教育研究会副会長，神奈川県立二宮高等学校長 佐々木修先生が閉会のことばを述べて大会の幕を閉じた。

3. 第11回秋田大会を振り返って

東北初開催ということもあり，東北の先生方に多数参加いただいたこと（東北六県で延べ70名の参加），また，初めて秋田を訪れたという先生方のお声をいただき，文字通り「秋田から全国へ向けて」情報教育の取り組みを発信できたのではないかなと思う。これに終わらず，ぜひとも青森，岩手，宮城，山形，福島での開催も実現してもらいたいと思う。

表3 都道府県別参加状況

北海道	3	東京	47
青森	8	神奈川	14
岩手	4	新潟	0
宮城	11	富山	2
秋田	36	石川	1
山形	1	福井	1
福島	3	山梨	1
茨城	1	長野	1
栃木	0	岐阜	0
群馬	0	静岡	4
埼玉	4	愛知	8
千葉	13	三重	2

滋賀	1	香川	1
京都	3	愛媛	1
大阪	16	高知	1
兵庫	1	福岡	2
奈良	2	佐賀	0
和歌山	10	長崎	0
鳥取	0	熊本	2
島根	0	大分	2
岡山	4	宮崎	2
広島	0	鹿児島	0
山口	1	沖縄	2
徳島	4		

4. おわりに

2016年に秋田大会の開催が決まり，2017年の東京大会が終了した直後より準備をして，この度無事に開会，閉会することができた。

秋田県情報教育部の先生方をはじめとする実行委員として携わっていただいた方々に感謝の意を表す。それと同時に，大都市以外での開催はこれまでも行われてきたが，秋田大会の開催形式も一つの方法として，他県の先生方に見ていただけたのではないかなと思う。

新学習指導要領における教科「情報」のスタートは2022年である。これまでに我々情報科教員が解決しなければならない課題は無数にある。その一つ一つを解決していくためにも，全国の教員が集まって情報交換をする必要がある。その役割を担っているのがこの全国大会だと思う。

次年度和歌山県開催の成功を祈念し秋田大会の報告とする。



写真3 会場の秋田公立美術大学